

イギリス・台北の中学生との交流遠隔学習

馬場 秀行 (慶應義塾女子高等学校)

イギリス政府の学校教育プログラムにおいて、10年ほど前から、アジアの学校との連携を深める施策が行われてきた。イギリスの文化言語の世界への拡大を図る国家機関であるブリティッシュカウンシルは、その一環として台北と東京の私学の連携のもと、イギリスの北アイルランドベルファスト市の中学高校との、共同学習を主宰するプロジェクトを一昨年からは開始した。このプロジェクトで東南アジア諸国と様々なイギリス内の中学高校がグループを作りテーマを自主的に決めて共同学習を進めていった。テーマの中心となるのは、「世界市民になるためには」という目標に向かって、共同交流学習が何ができるかであった。

2008年10月12日から一週間臺灣臺北市でブリティッシュカウンシル主宰の"Connecting Classrooms East Asia" (以下 CCEA と略記) グループ化決定国際会議が開かれ、東京は臺北市とベルファスト市と学習グループを組むことが決まった。

文化交流を目的とした国際共同学習プログラムは、現在数多くの試みが行われている。その中でブリティッシュカウンシルが主導する CCEA の特徴は、特に東南アジアの学校とイギリスの学校と東京の私学の交流が共同の学習テーマのもとに行えることである。筆者は東京の5つの私学（早稲田大学高等学院、鷗友学園、渋谷教育学園渋谷、麻布学園中学高校、慶應義塾女子高校）の参加を得て、臺北市立三民國民中學校 Gladys Yeh 先生、北アイルランドベルファスト市教育委員会 ICT 部長 Mr. David Shufflebottom 氏が主にプログラム作成の指導にあっていただいた。東京、臺北市、ベルファストの3つのグループの生徒たちは、それぞれ、異文化間交流によって国際的な視野を持ち、様々な視点から意見や議論を交換することによって「地球市民」となるために、"Tomorrow's World" "Sports and Health" "Environment" の共同学習テーマを採択した。東京私学グループは、最も意味範囲の広い「明日の世界」という表題のもとで、学習内容の細分化をすすめた。

これら一連の議論を進めていったのはEメールがほとんどであった。2008年の10月に臺北市で開かれたグループの結成会議のあと、東京に戻ってから参加各校では交流学習への参加生徒を募集した。東京私学では授業単位での活動ではなく個人がボランティアで参加する自由学習であった。臺北とベルファストは、教育委員会主導で授業単位での学習が行われることになっていた。東京私学では授業単位での交流学習はカリキュラム構成上不可能であった。各校で集まった生徒たちは "Tomorrow's World" という漠然としたテーマを具体的な学習主題にするべく議論を行うために、代表者会議を2008年11月8日に開き、15日の全体会議の進行やテーマの細分化について議論を行った。

その間デビッドさんとグラディス先生との話し合いから、交流の大筋が決まった。

第1段階では各国各都市各学校各個人について「紹介ビデオとファイル」を作成しこれを交換すること、第2段階では各グループが中心となってそれぞれの学習テーマについてほかの2国が共通のテーマで学習できるように「フォーマット」を作ることであった。

東京は「明日の世界」を、11月15日の全体会議の議論を踏まえて9つに絞った。人権、カウンセリング、暮らしの変化、環境、エネルギー、貧困、生物多様性、水、宇宙開発、である。各トピックはリーダーを選出し、私学5校を横断する形でメンバーを6人くらいで構成するように決めた。国単位ではなく地球を1つの単位として自分たちを捉えて問題設定するという視点が、果たして生徒に理解されたかどうか、今になって振り返ると不確かな面が見えてくるが、この時点では、上記の9つの切り口で、地球の明日を考えて行こうという方向が定まった。

次の段階は、2009年1月上旬までに、各トピックグループの生徒は、ベルファストと臺北にたいして、どのような学習手続きをするかのフォーマットを作りこれを送附した。それに基づいて各国が学習した内

容を相互的に理解できるようにしたかったからである。たとえば、水、というトピックでは貼付したファイルのような学習フォーマットを作って臺北とベルファストに送附した。

ベルファストからは環境問題について、臺北市からは、スポーツと健康についての学習フォーマットが送られることになっていた。しかし、東京グループの共同学習が自由意志による各グループ生徒たちの完全な自主学習の交流であったのに対して、臺北とベルファストは教育委員会が公立学校に授業単位での学習を促したために、個別の学校でやはりカリキュラムの運営に支障が出てしまった。2009年の1月になっても、この2都市からの学習フォーマットの送附が行われなかった。

ベルファストでは該当校の *Ashefield Girls High* 及び *Irish Language School, Model School* が、校舎の建て替え、担当者の交代、英語表現レベルの甚だしい差異、時間調整の困難さ、等の理由から、また、臺北の中学からは、英語表現を中国語から翻訳してEメールにし、それを、送附する手間が、あまりにも大きいという理由で、担当者が見つからないという理由からであった。臺北の生徒たちは日本の中学生と同じくらいの英語学習歴で、ほとんどアルファベットをようやく書き始めたくらいの表現力しかない。去年の暮れにある臺北の中学生が書いた文はこうである。

**I am very enjoy my school life but I hate ...Need to get up early every
day oh.. by the way I have a exams so I can't surf the net for
long time**

これは決して臺北の生徒を侮辱するつもりではないが、現状がこうである以上臺北の先生方が逡巡されてしまったのは致し方がないと思う。

従って、当然のことながら、どの学校をグループに組み込み、どのような学習体制を敷くかが重要なカギになってくる。ところが、このところについてブリティッシュカウンシルの極東担当者 *Mr. David Mathaias* さんや当時の東京担当者には誤算があったようだ。東京私学がめざしている交流学习の内容の程度と、ほか2国のそれとがこれほど乖離しているとは考えていなかったようである。筆者自身この点に関して全く視野の中に入っていなかった。当然同じ英語表現力を備えている生徒が相手国にいるだろうと思ったのである。しかし、2009年末にベルファストの *Jenny Boyd* 君と *Rachelle Glass* さんが送附したファイルを下記に見ていただく。

**Saving
The
Environment**

By **Jenny Boyd** and
Rachelle Glass.. ☺



Why save the environment ?

- Resources will run out for the next generation.
- Our earth is going to be destroyed if no-one is paying any attention




**How to save the environment
in every country.**


- Don't throw litter.
- Turn off your lights when not needed.
- Turn off your water taps.
- Recycle.
- No graffiti on walls.
- Don't smoke in public places.
- Put in full washes and not small ones.
- Don't make noise pollution.

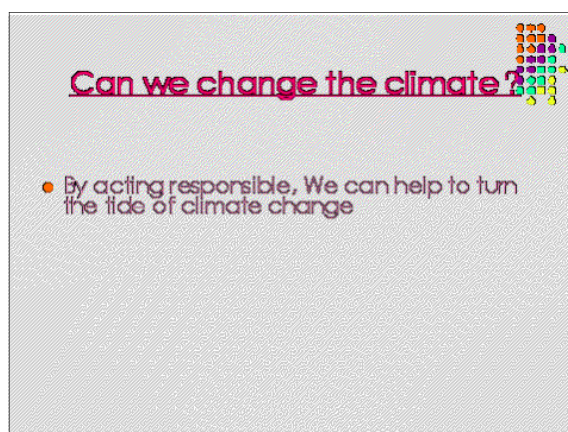
Don't throw away our future.
Recycle us.




Recycling song ☺

10 green recycling bottles sitting on the wall.
10 green recycling bottles sitting on the wall.
And if 1 green recycling bottle should accidentally fall.
Litter, waste and pollution will not be stalled.
Oh dear
Oh dear
Oh dear !! ☺



一方、学習フォーマット「水」を先に送ったトピックリーダーの慶應義塾女子高校、徳丸晃子君は資料1のようなレポートを作成した。

明瞭になったのは、3国間交流学習が、各国の生徒の英語発進力・理解力の著しい差異によって円滑に進まないことだった。振り返ると奇妙に見えるが、この英語力の著しい差異にたいして、筆者を含めた各国担当者は配慮を怠った。何度かの提案と意見交換を試みたのが2009年の春であった。しかし、ベルファストの担当校アシュフィールド女子高のキース先生とサミュエル校長はこの時期校舎の新築移転の業務に忙殺されてしまった。臺北のグラディス先生と、三民國民中学の校長スーザン先生からは、残念なことに英語の先生の時間を割くことができないので、中学生の学習の仲立ちを円滑にはかることができないという連絡があるのみだった。

大きな挫折であった。しかし、何とかこの状況を打開するために2009年初頭から上記のような交渉を続ける一方で、東京私学5校による共同学習を進めていくことが決まった。生徒たちの「地球市民」の課題に向けての学習がすばらしい進捗を見せていたからである。

そしてそのとき共同学習の管理ツールとしての有効活用が期待される朝日ネットの「まなばフォリオ」^(注1)の存在を知り、これを活用することが決まった。「明日の世界」から9つに細分化させて私学5校の生徒をテーマ別に再編成したあとリーダーを決め、活動はそのリーダーを中心として学習成果をまなばフォリオ上に用意された学習の記録欄にここのファイルをアップしていった。

2009年春から試用開始したまなばフォリオの「学習の広場」で、このプロジェクトの生徒は各トピックグループごとにオンラインで学習内容を公開し互いに意見を交換してさらに学習内容を進化させていった。授業に於いては互いの学習について批判的な意見を交換するという形態は今実現できていないのが実情だが、お互いの顔を見ないで済む、仲間同士の議論を冷静に聞くことができる、ヒントをもらって自分で積極的に学習アプローチを改良することができる、自分の自宅学習の時間を使うことができるのでインターネットでの調査やEメールでの意見交換を副次的に生じさせる効果を上げる、等の有利な点を実感することができた。

なお別冊でこの学習内容と一年間の活動記録を交換する準備を整えている。

最後にお名前をあげる紙幅が無く申し訳ないが、多くの方々のご協力に感謝します。

注1 「まなばフォリオ」は、朝日ネットが開発販売している SNS 製品の名称で、大学の講座・授業の管理ソフトとして主に使われていたものを、いわば学習の広場として応用利用しようとした。

参照 <http://manaba.jp/about-folio.html>



- Water -

Keio Girls' Senior High School-----Akiko Tokumaru

What is water crisis?

With the abrupt increase in population and the remarkable development in economy, lack of water has been occurred in many countries. The lack of water has an effect on serious food shortage and also on our ecosystem. Our water has been seriously polluted, because the production of polluted water disposal facilities has not been provided yet and 1200 millions of people can't secure safe drinking water. One child is dying every 8 seconds because of the water shortage. As the population in the world increases, these problems are thought to become even more grave.

By the surplus draw from the groundwater, stream flow has decreased and effects on our ecosystem of this planet. On the other side, water pollution has been the major problem inside the developing countries which are not able to catch up in preparation of facilities of the sewing system. Thus various problems are happening around the world depending on the domestic situations. In these situations, sustainable use of water resources and effective distribution has become our most significant and urgent issue.

Researched Report

Biggest water importing country ; Japan

The rate of Japan's self-sufficiency is up to only about 40%. We mostly import water from the world biggest country; U.S. That means world's water resource problem is deeply related to our food circumstances.

Japan seems to be abundant in water because this country is surrounded by the sea, but actually it is not. We are doing the same thing as stealing water from other countries.

The amount of the water that foods need is more than we can imagine. We have to think about how we we can stand on our own feet.

Disease caused by water

Water sometimes threatens our lives. For example, there are many people who die because they don't have enough and safe wells.

Let's look at the situation in the Republic of Mali. People in Mali go to pump the water to get drinking water without noticing that the water is in danger. There are sometimes toxicity insects in the water and people who drunk it will die. This disease is caused by Guinea Worm.

Guinea Worm gets bigger in the body and hurts our muscles and internal organs. About a year later after it has got into our bodies, it gets out of our bodies from the skin. Many children have been dead because of the pain of it getting out from the body.

Ironically, water to live have been the cause of the death.

Special Campaign



There's a project called "1l for 10l" in Japan. If we buy 1l of volvic, 10l of clean and safe water will be born in Africa.

What can we do for water from now on?

Leader of saving water

Leader of saving water is recruited by *Japan Water Forum*. Only individuals can apply to this project. Leaders should take actions about water and saving water. This group exists for making people be aware of the importance of water and what we should do to save it and live together from now on.

What we can do in our daily life

1. Do not use synthetic detergent

2. Do not pour oil in drain

- These decline the ability to dispose water.

3. Do not let the faucet open so long

-For example, when you are taking a shower or doing the dishes.

4. Use the used water from the bath

-Japanese people like to store clean water in the bathtub and enjoy in a hot bath.

5. Sprinkle with water

-This is a Japanese custom. If you have a waste water, sprinkle it at the street and it will help cool the earth.

What we are going to do as a member of the water topic

We are going to research more about water and apply to the Japan Water Forum in order to be a member of leaders of saving water. We would also like to know how water is used in Taipei and Belfast, and compare those with that of Japan.